

# 強固なアルミ無垢の筐体が導く静寂 待望の最新プレーヤーが上陸

BEST HiFi  
Components

2020 AUTUMN

Text by  
鈴木 裕  
Yusaku Suzuki  
Photo by 田代法生

## KUZMA STABI R

アナログターンテーブル  
¥1,400,000 (アームレス、税別)  
※写真のトーンアームは4POINT (¥1,150,000 / DIN仕様、税別)、  
MCカートリッジはCAR-50 (¥1,100,000 / 税別)  
専用スタビライザー (クランプR) は別売オプション (¥70,000 / 税別)



無駄に重くしていない  
剛性や鳴き対策を徹底

クズマはスロベニアの高級アナログプレーヤーのメーカーだ。主宰者はフランツ・クズマ。会社設立は1982年で、アナログ再生の奥義を追求しつづけている。その久しぶりの新製品と言え、それがSTABI Rだ。型番がRDになるとダブルアームに対応できる仕様だが、いずれもトーンアームレスのプレーヤーだ。

一見するとややコンパクトなキヤビネットだが、実は無垢のアルミからの削り出し仕上げ。実際に持ってみるとずっしりと重く、指で叩いてみても一切鳴きがない。重量は36kg。このメーカーのこだわりは、剛性や鳴きのなさを追求した結果なのだろう。モーターもパワーサプライ内部に内蔵している。また注文時に指定すれば追加料金なしで78回転にも対応できるという。ベルトドライブで駆動されるプラーターはアルミ/アクリル/アルミの3層構造で重量は8kg。軸は16mm径で、その受けはルビーのボールを採用。スラスト軸受け内の摩擦とノイズを最小限に抑え、特殊な低ノイズ複合材で強化。

磐石の安定感に打ちのめされた  
全域に渡って密度が濃い

テストは本誌試聴室で行った。トーンアームは同社の4POINT T。VTA (トーンアーム根元の高さ調整機構) によるカートリッジと盤の角度調整を、音楽を再生しながら行える。100分の5mmの違いで音像が激変するのを体験させられてしまうトーンアームだ。音ミゾをトレースする能力の高さという、安定感といい、凄じいものがある。カートリッジは同社のCAR-50で、4Nの銀線のコインルを採用したMCカートリッジ。アキフェーズのレファレンスでB&W 803D3を鳴らすシステムで試聴していった。

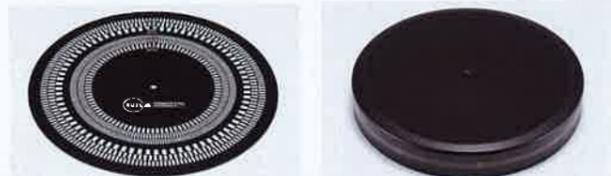
聴き出してすぐにその音の、磐石の安定感や最低域のレンジの広さ、全域に渡っての密度の高さに打ちのめされた。オプションで用意されている専用スタビライザーの「クランプR」も使ってみたがこの基本的な音の方向性はスタビライザーの有無では変化しない。たとえばグリニウオーがソロヴァイオリンを弾いているバガニニのヴァイオリン協奏曲。低弦やグランカッサ(大太鼓)の地に足がついた感じ。低域の剛性感がきわ

### Details



試聴には同ブランドのトーンアーム4POINTとMCカートリッジCAR-50を用いた

ドライブベルトは特殊素材を用いた専用のものが採用されている。軸受けは逆軸受け型



ストロボディスクが付属する

プラーターは2枚のアルミニウムでアクリルを挟み込んだ3層構造

### Specifications

●プラーター:8kg (アルミニウム及びアクリル) ●軸受けタイプ:逆軸受け (ルビーボール)  
●軸直径:16mm ●ターンテーブル:レベリングあり(4調節脚) ●駆動方式:シングル DC  
モーター ●ベルト:特殊専用 ●内部パワーサプライ:あり(電子制御) ●速度:33.45rpm  
(78rpmはオプション仕様) ●サイズ:480W×150H×380Dmm ●質量:36kg ●標準カラー:ブラックまたはシルバー ●アームボード+ウィングあり ●取り扱いシーエスフィールド(特)

めて高く、そこにハーモニーが乗っていきその鳴り合い方の濃厚さ。ただし音の立ち上がりは俊敏でしやがみもよい。後味はすっきりしている。そもそもレコードにおいて低域は音圧を下げて音ミゾにカットインクされたものをRIAAカーブによって持ち上げるので、そのS/N感や低域の逃げない感じ、多彩な低音の音色感などはアナログプレーヤーを評価する時の大きなポイントだがここがかなりいい。聴き慣れたレコードを5枚ほどかけていったが、音像の実体感や

演奏の生命力、演奏がぼつこり出(しゅつ)た)してしまふ感じはまるでマスターテープを聴いているようだ。きわめてダイレクトに録音と向き合える。さすがにクズマのプレーヤーだ。その表現に峻厳とも言えるような彫りの深さをもたらしてくれる。また、この安定した音でこのコンパクトなサイズを実現しているところにも魅力を感じる。トーンアームを含めて300万円前後のプレーヤーを物色している方にはとりあえず、是非試聴の機会を持ってほしい一白だ。

**Profile** スロヴェニア発のアナログプレーヤー専門ブランド、KUZMA (クズマ) から最新のターンテーブル「STABI R」が発売された。無垢のアルミブロックから削り出したそのボディは、必要な要素以外をすべてそぎ落としてきた従来モデル「STABI S」の斬新なデザインとは相対しているようにも見える。しかしそこにはクズマ氏が常に追求している「最小限のメンテナンスで最上のパフォーマンスを発揮する」というポリシーの点で確実に通底するものがあるに違いない。本項では実際に「STABI S」を愛用する筆者が、その魅力を探究していく。